

## 2024 年度第 2 回一宮市立図書館協議会会議録（要旨）

- 1 開催日時 2025 年 2 月 27 日（木）午前 10 時～11 時 27 分
- 2 開催場所 中央図書館 6 階 多目的室 1
- 3 出席者 委員 9 名、事務局 6 名
- 4 傍聴者 0 名
- 5 議 題
  - (1) 市立図書館の利用状況について
  - (2) 利用者意見の調査結果について
  - (3) その他
- 6 開 会 （事務局が開会を宣言）  
一宮市立図書館長挨拶  
協議会会長挨拶
- 7 会 議（要旨）
  - （事務局）会長が議長となり以後の議事進行を行います。
  - （事務局）議題（1）「市立図書館の利用状況について」資料に基づき説明。
  - （議 長）質問や意見がありましたらお願いします。
  - （委 員）来館者数ですが、中央と尾西は多くて、木曾川と子文が減っているのは何か理由があるのか。
  - （事務局）木曾川についてはコロナ以前と同水準くらいまでは戻ってきているので、地元の人が戻ってきたのかという感じを受けている。子文に関しては下がってきてなかなか戻らないように見受けられるが、原因が何かは分からない。
  - （委 員）子どもの数が減っているからか。
  - （委 員）子文の数が減ったというところで思い当たる節が一つあって、子文でフレッシュママ交流会をやっていたのを、今は千秋の公民館の方でやっていて、子文だと帰りにお母さんたちに本があるから見て行ってねとか、きっかけを与えることが出来た。フレッシュママ交流会をきっかけに図書館を知るといことで、とてもいい場所だったと私は思っているの、それはこの辺りに何か影響していないかなと思う。
  - （委 員）主任児童委員の方でブックスタートをやっている。絵本をプレゼントして、赤ちゃんでも図書館で貸出カードが作れるので、帰りに良かったらカードを作って図書に親しんでください、子どもに本を読んでくださいと案内する。だから帰りに、お母さんたちが寄ることができる図書館が近くにある、尾西でもすぐ隣が尾西図書館ですし、そういう場所は大事ではないかなと思う。
  - （委 員）学校向けの貸出というのはこのデータの中に入っていないか。
  - （事務局）こちらの貸出者数、貸出点数、予約点数の数字は個人の貸出の分だけで、学校の分は入っていません。
  - （委 員）子どもたちは学校で図書館の本を借りられるという事なのか。
  - （事務局）学校によって取り扱いがそれぞれ違い、図書室の中だけで見るようにしているとか、授業で使うために借りるとか、学校によって様々である。
  - （委 員）おっしゃる通りで、多くは調べ学習で使う事が多い。個人でというケースも

- ないわけではないと思うが、大体が学年で、4年生で環境学習があるとか、5年生で歴史学習があるとかという時にまとめて150冊まで借りている。
- (委員) 新聞に、日進市で子供たちが学校から、中央図書館の本を借りられるようになった、それで貸出が随分増えたという記事が、いつだったか忘れたが載っていた。なるほど、子どもにとっては良いなと思った。
- (議長) 今の学校で貸出返却というのはどうか。そういうパターンも今後できると利便性はよくなる。ただ図書館にとっては大変な手間になる。学校へ配送するのは毎日か。
- (事務局) 日にちがあらかじめ決まっており、中央図書館の場合は月曜日と金曜日。尾西は金曜日です。
- (議長) 貸出期間は。
- (事務局) 次の配送日までなので大体1か月位です。
- (議長) 学校は1か月。個人の貸出が混在するのはちょっと難しいかと。配送は今定期的に中央からだ週2回、尾西は1回という形で行われているので、学校と個人の、いわゆるネットで予約して自宅へ配送するというものとよく似通った話になってくるかと思う。受け取り場所、返却場所が増えることによって、より利用の促進につながるのではないかと。返却は出張所、尾西、木曾川の窓口課でできる。受け取りは各図書館という形になる。返却の窓口は比較的多い。できれば貸出の窓口も、市民の利便性を少しでも向上できるような方向にすることも今後の検討課題と思うのでよろしくお願いします。
- では議題の(2)「利用者意見の調査結果について」事務局から説明願います。
- (事務局) 議題(2)について利用者アンケート結果に基づき、中央図書館→尾西図書館→玉堂記念木曾川図書館→子ども文化広場図書館の順に説明。
- (議長) ただいま4館の方からご説明をいただいたが、この調査結果を踏まえて何かご質問等、あればお願いします。
- 一点、4館とも同じように実施状況の配布数、回収数、回収率というのがわかるような形で記載していただきたい。
- (委員) 子文は去年、カウンターに置いて配布されたのが今年は手渡しということで回収数が増えて、やり方を変えるだけで凄いなと思った。
- (委員) 各館で配布の仕方が違う。アンケートを取るというのは、大変なことだと思うが、1年に1回しか取らないアンケートだから、どれだけ配ってどれだけ回収できるかという意気込みが、館によって違うのかなと思ってしまった。アンケート用紙を分けるのではなく、このアンケート用紙のどこか片隅に、二次元コードをのせればいいのかと思うがどうか。紙で出されて帰れば良いし、出さない人は家に帰ってからでも出来るので。
- (事務局) 昨年度は紙の用紙の裏に二次元コードを印刷してやったが、紙のアンケートと、それからネットでのアンケートを別の用紙に分けるやり方にした。それによりどういう影響が出たのかというのは、何とも言えないのですが。
- (委員) 2種類よりも1種類で済ませられたのではと思う。そのやり方は他も同じで統一しているという事か。
- (事務局) 同じやり方です。
- (委員) アンケートを取られて、その後各館どの様にされるのか。集計結果をどの様

に受け止めて、この後の対応をどのようにしているか。集計したらおしまいか。

(事務局) 集計結果をウェブサイト等で公表して、こういう結果が出ましたという事を、利用者の方に見ていただくことができます。

(委員) 業務改善に活かされているわけではなく、公表しておしまいのか。

(事務局) 改善できるような所は、させていただいている。

(委員) 例えば館内で職員の人に周知するとか、館内整理日に研修とか、そういうのはないのか。

(事務局) 中央図書館では委託先の職員全員に、こちらの内容は見えていただくようにしている。他館も同じようにしていると思う。

(委員) 会計年度任用職員とか中央図書館の業務委託の職員とか色々な立場の方がみえるので一概には言えないが、私がもし働いている立場だとして、この結果を見比べた時に、私たちの働きはこんな評価なんだ、他に比べて低い評価だとしたらちょっと何か頑張らなきゃと思うたりすると思う。職員の人達が、振り返る材料にはならないか。

(事務局) もちろん頂いた意見は貴重な意見ですので、スタッフには周知しています。

(委員) 自分の所だけじゃなく、他所と比べた感じを見たほうがいいのではないかと思う。

(委員) 子文でお世話になっていて、食事の時などに、アンケートの事は話題に出ていて、ここ良かったねとか話して、けっこう励みになっていると私は受け止めている。他館の結果も見て、皆さんそれぞれ話していて、私は子文の事しか分からないが良いと思っていた。施設面などどうしようもないことを言われることもあるが、そういう意見があるということを知るのは良いと思う。

(委員) 実際にこういうアンケートで評価されたといったら絶好のアピールになる。単に公表した所でおしまいじゃなくて、私たちはちゃんと答えているというところまでやらないともったいない。アンケートを実施していい結果になっている、図書館はたくさんの人に利用されているという事を、積極的にアピールした方が、アンケートをしてくださった方にも良いし、こういう事を図書館はやっているんだと、利用していない人にも届くかもしれないので、是非そういう所までやっていただきたい。こんなに良い評価がされているのだから、図書館は本当に役に立つ公共施設でとても利用が多い施設なのに、割と評価が低いというのは、よく言われるので、実際はこんなにも沢山の人が利用して、満足しているというのは、アンケートの結果にも出ているので、他の部署にもアピールするくらいのはした方がいいと思う。

(議長) やはり来館者にもアピールし、運営する側も更なる意識の向上に努めていただく。せっかくのアンケート結果なので、4館それぞれの質の向上を、これからもどんどん図っていただきたい。他よろしいですか。

(委員) これは利用者の方のアンケートであって利用していない人たちはなぜ利用していないのか。先ほど言われたように図書館の良さを知らないから、行ってみようかという思いも、持っていないから、行かないのか。周りで様子を聞いてみると、やはり文字離れというのか、本を読みたいと思わないとか、

本は嫌いだというような声が段々増えてきたような気がしている。小さい時から絵本に触れさせて、あれだけ絵本が大好きだったはずなのに、突如本から離れていくのはどうしてなのか。やはり今の家庭の状況を見ている、親御さんたちにも、子どもたちにも時間の余裕がない。時間がちょっとあれば、本ではなく、ゲームとかYouTubeに行ってしまう。何かこれからもっと来館者数も貸出数も減ってしまうのではないかと凄く思う。だからアンケートの数字の方には惑わされないで、子どもたちが図書館を利用したいとか本を読みたいとか、そういうのを考えていかななくてはならないと思う。今の子ども達を見ていると、その辺が危惧される。

- (委員) 図書館に来る子を待ってられないので、私たちは学校の朝読の時とか児童館とか子どものいる場所に行って、お話ししたり、絵本の読み聞かせをしている。朝読の所に出掛けると、色んなボランティアの人達と顔を合わせるので、凄く心強い。学校がなるべく、朝読の時に読み聞かせしてくださいと依頼してくださると嬉しい。学校もノーテレビ、ノーゲーム、ノーネットとか、とにかく一日でも良いからそういう風に子どもたちを携帯電話やネット社会から切り離して、家族で本を読んだり、コミュニケーションを取ったりする日を作ろうと、学校は学校で一生懸命やっている。図書館には凄く意識の高いお母さんたちしか子供を連れてこないなので、なるべく積極的に地域に、学校とか保育園、幼稚園には出かける事になっている。それはなかなかすぐには効果が出ないが、本離れはもう確実に進んできている。
- (委員) 中学校まではある程度読む環境があって、大人の方が深刻。そういう風にならないようにするにはどうしたら良いかが分からない。
- (委員) 学校は、読み聞かせのボランティアさんに力を借りたり、読書週間をやったりしながら、あの手この手でとにかく人がいる図書館、今は学校図書館司書が配置されているので、何とか全校が取り組んでいるが、出来るだけ読書の日を、学校教育の中でできたら良いと思う。
- (委員) 私は昔東京に住んでいて、図書館が徒歩で行ける所に3つか4つあって、図書館ごとに特色がありいろんな図書館に行くのが楽しかった。置いてある絵本の系統が違ったりとか、そういう特色を出していけたら良いかなと思う。
- (委員) 私もそれぞれの館の特色があると良いと思う。
- (議長) せっかく4館ありますので、それぞれ地域の特色を活かしていければと思う。それでは議題(3)その他について、事務局からお願いします。
- (事務局) 委員の皆さまの任期は、一宮市立図書館条例第6条により2年となっており今年の4月14日が任期満了となっております。この間、委員の皆様から貴重なご意見を賜り、誠にありがとうございました。  
以上をもちまして、本日の図書館協議会を閉じさせていただきます。